



# WHA GROUP NEWS

WHAグループニュース <http://www.wha-group.com>

vol.37

## クアーズテック・アドバンスト・マテリアルズ (タイランド) WHA イースタン・シーボード工業団地4に新工場設立へ

大手最先端セラミック事業の米クアーズテック社の子会社、クアーズテック・アドバンスト・マテリアルズ(タイランド)はラヨーン県のWHAイースタン・シーボード工業団地4(WHAESEE4)での新工場設立のための起工式を行いました。東部経済回廊(EEC)に位置する同工業団地は東南アジア最大規模のハブをクアーズテックへ提供し、地域顧客の戦略的な成長と効率的な事業環境構築を推進します。



「我々はMFECCとパートナーシップを結ぶことを非常にうれしく思っています。我々のTier IIIプレミアム・データセンターはバンナートラッドとウィパワディランシット通りに面した戦略的好立地にあります。MFECCのニーズに応えることが可能です。データセンターでは独自のジェネレーター、UPS、冷却、消火システムを用いており、高い安全性を確保しています。また再生可能エネルギーを使用し、環境保護にも役立っています(WHACORPのジャレシオン会長兼グループCEOのジャレシオン・ジャルコンサクン氏)。



「この契約によりさらに事業を拡大し、最新の技術と最大限のセキュリティを顧客へ提供できるものとします。WHA Infonite社のデータセンターは国際基準を満たし、事業の継続性を確保するサービスの提供を実践しています。これは我々が国内外の顧客にサービスを提供する際、最重要視するものです」(MFECC役員 Siwat Vongjarukorn氏)

「デジタル時代の今日、データはすべての事業分野において最も価値のある資源の一つです。継続的かつ安全にデジタルインフラへアクセスできることは、電気やその他のユーティリティにアクセスすることと同レベルで重要なことです。今回の契約により、WHAのワールドクラスのデータセンターを通して、MFECCの事業展開に貢献できることをうれしく思います」(WHAコーポレーション会長兼グループCEOのジャレシオン・ジャルコンサクン氏)

このプロジェクトによりWHACORPの屋上設置型太陽光発電EPCサービスがクリーンエネルギーとコスト削減を目指す企業

WHAデジタルは、ユーティリティ&パワー及びデジタル・プラットフォーム大手で流通・工業団地を運営するWHAグループの子会社WHA Infonite Company Limitedを通じて、ネットワーク・コンピュータリングとeビジネスを専門としたITサービスプロバイダーであるMFECC Public Company Limited (MFECC)とのデータセンター契約を締結しました。MFECCはWHAのプレミアム・データセンターを利用してセキュリティ・オペレーションセンター(SOC)を運営し、将来的にはサーバラックを増設していくことも視野に入れています。

「この契約によりさらに事業を拡大し、最新の技術と最大限のセキュリティを顧客へ提供できるものとします。WHA Infonite社のデータセンターは国際基準を満たし、事業の継続性を確保するサービスの提供を実践しています。これは我々が国内外の顧客にサービスを提供する際、最重要視するものです」(MFECC役員 Siwat Vongjarukorn氏)

「デジタル時代の今日、データはすべての事業分野において最も価値のある資源の一つです。継続的かつ安全にデジタルインフラへアクセスできることは、電気やその他のユーティリティにアクセスすることと同レベルで重要なことです。今回の契約により、WHAのワールドクラスのデータセンターを通して、MFECCの事業展開に貢献できることをうれしく思います」(WHAコーポレーション会長兼グループCEOのジャレシオン・ジャルコンサクン氏)

「このプロジェクトによりWHACORPの屋上設置型太陽光発電EPCサービスがクリーンエネルギーとコスト削減を目指す企業

このプロジェクトによりWHACORPの屋上設置型太陽光発電EPCサービスがクリーンエネルギーとコスト削減を目指す企業



タイ石油公社社長のNopadol Pinsupa氏(写真中央)、WHAコーポレーション社長兼グループCEOのジャレシオン・ジャルコンサクン氏(左から3人目)、Tacharon Vachiramon氏(右から3人目)、Sertis社CEO

今回の共同研究はタイ・エネルギー規制委員会(ERC)と地方電力公社(PEA)が実施するエネルギー新技術の試用運用プログラム「ERCサンドボックス」の一環として、マイクログリッド電力管理システムの下で選定されました。PTT、WHAUP、Sertis社により開発された「スマート・エネルギー・プラットフォーム」は代替エネルギー管理をより効率的に、そしてエネルギーの安定供給を実現します。

WHAコーポレーション会長兼グループCEOのジャレシオン・ジャルコンサクン氏はバンナートラッド7キロ沿いの新社屋WHAタワーにて、他社の役員が見守る中、プラファマー神の竣工式を行いました。

WHAコーポレーション会長兼グループCEOのジャレシオン・ジャルコンサクン氏はバンナートラッド7キロ沿いの新社屋WHAタワーにて、他社の役員が見守る中、プラファマー神の竣工式を行いました。

「我々はWHAUP社とのMOU契約に心より感謝しています。バンチャーン地方自治体では水管理で持続可能な発展を遂げるモデルケースとなることを目指しています。このプロジェクトが双方にとって有益であり、かつ長期的にもコミュニティの環境ソリューションを促進すると信じています」(バンチャーン地方自治体のSuchin Pulharn市長)

「我々はWHAUP社とのMOU契約に心より感謝しています。バンチャーン地方自治体では水管理で持続可能な発展を遂げるモデルケースとなることを目指しています。このプロジェクトが双方にとって有益であり、かつ長期的にもコミュニティの環境ソリューションを促進すると信じています」(バンチャーン地方自治体のSuchin Pulharn市長)

## PTT、WHAUP、Sertis AIによるエネルギー管理とブロックチェーン技術の 「スマート・エネルギー・プラットフォーム」共同開発へ

「我々はWHAUP社とのMOU契約に心より感謝しています。バンチャーン地方自治体では水管理で持続可能な発展を遂げるモデルケースとなることを目指しています。このプロジェクトが双方にとって有益であり、かつ長期的にもコミュニティの環境ソリューションを促進すると信じています」(バンチャーン地方自治体のSuchin Pulharn市長)

「我々はWHAUP社とのMOU契約に心より感謝しています。バンチャーン地方自治体では水管理で持続可能な発展を遂げるモデルケースとなることを目指しています。このプロジェクトが双方にとって有益であり、かつ長期的にもコミュニティの環境ソリューションを促進すると信じています」(バンチャーン地方自治体のSuchin Pulharn市長)

「我々はWHAUP社とのMOU契約に心より感謝しています。バンチャーン地方自治体では水管理で持続可能な発展を遂げるモデルケースとなることを目指しています。このプロジェクトが双方にとって有益であり、かつ長期的にもコミュニティの環境ソリューションを促進すると信じています」(バンチャーン地方自治体のSuchin Pulharn市長)

「我々はWHAUP社とのMOU契約に心より感謝しています。バンチャーン地方自治体では水管理で持続可能な発展を遂げるモデルケースとなることを目指しています。このプロジェクトが双方にとって有益であり、かつ長期的にもコミュニティの環境ソリューションを促進すると信じています」(バンチャーン地方自治体のSuchin Pulharn市長)

## WHAUP、バンチャーン地方自治体と 排水再生事業でMOU締結



「我々はWHAUP社とのMOU契約に心より感謝しています。バンチャーン地方自治体では水管理で持続可能な発展を遂げるモデルケースとなることを目指しています。このプロジェクトが双方にとって有益であり、かつ長期的にもコミュニティの環境ソリューションを促進すると信じています」(バンチャーン地方自治体のSuchin Pulharn市長)

「我々はWHAUP社とのMOU契約に心より感謝しています。バンチャーン地方自治体では水管理で持続可能な発展を遂げるモデルケースとなることを目指しています。このプロジェクトが双方にとって有益であり、かつ長期的にもコミュニティの環境ソリューションを促進すると信じています」(バンチャーン地方自治体のSuchin Pulharn市長)

# サイエンスパーク

WHAコーポレーション株式会社  
会長兼グループCEO  
ジャクリーン・ジャルコーンサクン



した。

21世紀を迎え、豊富な天然資源と安い労働力だけが経済競争力を決定づけるものではなくなくなりました。テクノロジー、イノベーション、クリエイティブティといったものが移りゆくビジネス界を今後長く支えていくでしょう。変化の激しい世界では国も企業も集中力を養い、レジリエントであり、常に前向きな姿勢であることが望まれます。

サイエンスパークは世界各国の政府にとって非常に重要な位置を占めるようになってきました。テクノロジー、研究、イノベーション、人材育成といった分野において、統合し協業を推進することで、新製品の開発やサービス、新規ビジネスモデル、事業化の成功につながる可能性を秘めているからです。

1950年最初に設立されたシリコン・バレー(米国)はサイエンスパーク発展のバイオニア的存在でありました。スタンフォード大学とカルフォルニア州パロアル



中国の科学技術は1990年代から2010年代に急速に発展を遂げます。現在、中国のハイテク・パークの数は2000か所以上に及びます。習近平国家主席の国家戦略「メイド・イン・チャイナ

ト市が提携パートナーとして発足したのが始まりで、もともとスタンフォード大学サイエンスパークとして知られていました。大学、民間企業と周辺の地元コミュニティの交流により相互作用でイノベーションを促進することを目的としています。

スタンフォード・リサーチ・パークやノースカロライナ州リサーチ・トライアングル・パーク(RTP)といったアメリカのサイエンスパークの成功は、政府、企業家、大学が協働し、発案コンセプトからイノベーションを起こし、大量市場での商業化へと発展させるモデルケースとなりました。1960年から1980年代にかけて、ヨーロッパでもいくつかのサイエンスパークが開発されました。一方アジアでは1970年代初めから80年代に入ってからようやく開発が始まります。日本のかつば研究支援センター、台湾の新竹科学園区、シンガポールのシンガポール・サイエンスパークなどが設立されました。

2025年には中国は経済成長を加速し、高度技術とイノベーションを促進するために一部政策方針を改編し、全国に100以上のサイエンスパークを開発します。新型コロナウイルス感染症拡大が起る前に、中国の北京と上海を中心に位置するサイエンスパーク、中関村サイエンスパークや清華サイエンスパーク、漕河涇新興技術開発区、紫竹サイエンスパークなどを訪れる機会がありました。清華大学傘下の事業グループTUSホールディングスグループの役員の話では中国のほぼ全てのサイエンスパークで健全なエコシステムが完備され、国内のスタートアップを指す人と企業家を育成できるような設計となっているとのことでした。アクセラレーター、企業パートナー、企業体、大学からの支援で、中国のスタートアップはスケールアップ、スケールアウトしながら国家の成長に貢献することができるとしています。

一方、現在のタイは大きな変革のときを迎えています。タイランド4.0では技術、イノベーション、クリエイティブティを通して国の競争力強化が期待されています。デジタル・タイランドとなることを目指して、ハードICTインフラの開発にすでに成功している

ます。近隣諸国と比較して、通信ネットワークが普及しています。R&Dを含むソフトウェア面でのさらなる発展が必要で、伝統産業のメデイカル・ツーリズム、農業&食品産業などの変革を支えるため、人材開発、デジタル専門知識とスキルを持ち合わせた企業家といった優秀な労働力、健全かつ信頼度の高いスタートアップエコシステムの構築が必要です。

ロジスティックス、工業団地開発の第一人者であるWHAグループでは健全なエコシステムの必要性を強く感じています。そこで、中国大手の科学技術サービスグループTUSホールディングスと提携し、TUSパークWHAインキュベーション・センターを共同設立することを決定しました。このイノベーションセンターではイノベーション、コンサル、タイと海外のスタートアップ双方のためのビジネス・マッチングなどの支援を行ないます。WHAグループのサイエンスパークプロジェクトの大きな第一歩となることと見なされています。



新技術がタイの経済と社会発展に挑戦し変革をもたらし中、民間企業は政府と協力してデジタル・タイランドを推進しました。政府は国家戦略、政策立案者としての中心的な役割を担います。政府の積極的な戦略とこの変革への取り組みを支持する姿勢が、最終的には新しいデジタル時代でのタイの成功と繁栄を決定づけるでしょう。

WHA-TUSサイエンスパークは政府、教育機関と民間企業の強い連携によりタイの技術とイノベーション、エコシステムの発展を押し進める重要なメカニズムとなるでしょう。当機関はただ単にタイのスタートアップに技術、イノベーション、知識を提供するだけでなく、タイの起業家に潜在的なビジネス・パートナーやターゲット市場、特に14億人以上の消費者を抱える巨大な中国市場への足がかりとなります。

## WHA GROUPで更なる飛躍を目指す企業

### 豊田通商(タイランド) TTテクノパーク



常に顧客に寄り添いソリューションを提供  
DXサービスの質を高め業務効率化に貢献

製品・半導体・保険など非自動車産業も含めて支援するとともに、移動の新概念であるMaas(MaaS: Mobility as a Service)および自動車産業のキーワードともなっているCASE(ケース)などのDX(デジタルトランスフォーメーション)分野のサービスの質を向上させ、ニーズが多様化する顧客企業の事業展開に貢献していく方針を掲げています。最近ではスタートアップとの関係も深めています。龍田社長がDX関連サービスの一例として挙げるのが通勤バスのオペレーションの改善です。残業などのため乗車率が悪いにもかかわらず大型バスを運行させるなどしてバス料金が個社にとり割高となっているケースは少なくないようです。従業員約1000人の工場では月々200万バットの支出が必要となることもあるそうです。日本人幹部は生産現場でのコスト削減は得意ですが、通勤バスなどローカルスタッフに任せている分野は手つかずの領域となっていることでもあります。ここにDXの手法のひとつであるRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)を活用し、ルートと車の種類(大型バス、ミニバス、バン)を時間帯により最適化することをTTTPでは提案。同じルートを走っているバスを共有することで乗車率を50~80%するなどコストを20~30%下げることが可能とされています。さらに、バスの運行数が増えることでCO2排出量を削減することにもつながります。

「トヨタのカルチャーである現場主義は豊田通商グループにも根付いています。常に顧客に寄り添い、顧客とともに汗を流し、問題を解決していきます」豊田通商(タイランド)イースタンシールポード支店のブランドマネージャー、およびタイで豊田通商テクノパーク事業を担当するTTテクノパーク(TTTP)の社長を兼任する龍田貴行氏はそう力を込めます。トヨタグループの総合商社である豊田通商がタイ拠点となる豊田通商(タイランド)を設立したのは1957年1月。日本から消費財・産業機械・タイヤを輸入することが当初の目的でした。その後、80年代後半に日本企業のタイ投資ラッシュが始まると、トヨタグループ関連の自動車部品メーカーも1990年代にラヨン県のヘマラトイイスタンシーポード工業団地(当時)などに進出。2002年にはTTテクノパーク(TTTP)をWHAイースタンシーポード工業団地に立ち上げました。その後、顧客企業は100社近くに達し、TTTPだけでは対応が難しくなってきたことから、2015年に豊田通商(タイランド)イースタンシーポード支店を開設。顧客支援で協業していくことになりました。

移転先としてWHAイースタンシーポード工業団地を選んだ理由としては、規模が大きく開発計画がしっかりしておりインフラのレベルが高かった点、そして日本人居住者の多いシラチャに近かった点も挙げられています。豊田通商(タイランド)およびTTTPでは、モノづくりに安心して専念できる事業環境を構築するため、会社設立・事業立上げから事業運営まで豊田通商グループ全体で包括的に支援しています。生産準備のために必要な物流・設備・保険・ITなどのサービスや機能をワンストップで提供するほか、事業運営に不可欠である給与計算、ビザ・ワークパーミット取得、経理記帳代行・税務、通勤バス運行管理、フォークリフト手配のアウトソーシングを請け負うことで、経営者の負担軽減および事業効率化に貢献しています。さらにマネジメント・サポートではトヨタグループの一員である利点を最大限に活かし、事業運営に必要な各種情報を厳選した上で迅速に顧客に伝えており、この点もTTTPおよび豊田通商(タイランド)への信頼度を高めることにつながっています。



これだけ多岐にわたるソリューション提供を可能としているのが現場主義の徹底です。不動産・ファイナンスなどで利益を上げるのではなく、毎日顧客にコンタクトすることで、困りごとを聞き、ソリューションを提供することに集中します。「この点が他の商社との違いではないでしょうか。私たちが『モノづくり商社』と言われる由縁です」と龍田社長は強調します。今後の事業展開ですが、タイ東部の工業団地に進出する自動車関連製造業を核としながら、プラスチック・洗剤・石油

# ゴアテック、WHA インダストリアル・ゾーン1 ゲアンで新工場起工式を開催



WHA インダストリアル・ゾーン1 ゲアンとゴアテック・プレジジョン・ベトナム社のプロジェクトチームのメンバーとドン・ナム経済地区当局担当者ら

WHA インダストリアル・ゾーン1 ゲアンとゴアテック・プレジジョン・ベトナム社のエンジニアチーム

グローバルなテクノロジーサプライチェーンとして重要な役割を担うゴアテック香港の子会社、ゴアアテック・プレジジョン・ベトナム社はWHA インダストリアルゾーン1 ゲアンで新工場設立のため起工式を執り行いました。最先端の製造技術を装備する新工場はスマート・ハードウェアと高精度電子コンポーネントの生産で世界中の顧客の要望を満たすことができるでしょう。

タイ及びベトナムの工業団地運営大手のWHA インダストリアル・デベロップメント社はベトナム・タインホア省人民委員会との間で2か所の工業団地の開発に向けた了解覚書(MoU)の締結を公表しました。

最先端技術を担う産業を誘致するため、第一プロジェクトを「WHA スマートテクノロジー・インダストリアル・ゾーン」と名付け、総敷地面積600ヘクタールに加え、居住地区建設用に30ヘクタールの用地を準備しています。第二プロジェクト「WHA 北部インダストリアル・ゾーン・タインホア」の総敷地面積はおよそ540ヘクタール。ターゲット産業はプラスチック、ゴム、ケミカル、バイオ・ケミカル製品、金属加工および鋳造、建築資材、自動車部品、機械組立、家電といった下流産業を対象とする予定です。今後、許可取得に必要な手続きを開始し、それぞれ2023年、2022年に着工を予定しています。

タインホア省はベトナム北部中央に位置し、ベトナム第3位の人

口360万人を有し、うち労働力人口は230万人となります。首都ハノイ、ベトナム北部最大の港湾都市ハイフォンにも近く、ハノイ・ノイバイ国際空港やラックフェン国際港へのアクセスがよく、物流、インフラの面でメリットがあります。

主要都市から12キロほどのところに位置し、教育水準の高い労働力の需要を満たすことができます。第二プロジェクトはニソン製油所に近く、石油化学と金属サプライチェーンの統合を可能にします。

一方、タインホア省人民委員会と副委員長の Nguyen Van Thi氏は、「我々はWHA インダストリアル・デベロップメント社と提携を結び、2つの有力なプロジェクトを遂行することを非常にうれしく思います。ニソン製油所と高度に開発されたラックフェン国際港など、既存の石油化学分野の産業基盤に加えて、他の産業を誘致する大きな可能性を持っています。新しい扉を開け、地域社会の雇用を生み出すことを非常に楽しみにしています」と強い期待感を示しています。

WHA インダストリアル・デベロップメント社は3年前にWHA インダストリアル・ゾーン1の開発を始めました。フェーズ1の498ヘクタールのうち、143.5ヘクタールが完成し、さらに開発が進められています。建築資材、電子機器、食品加工、太陽光発電、鋼鉄産業などさまざまな産業分野の中国、日本、タイ、ベトナムからの企業を誘致しています。

「AAT社」の屋上設置型太陽光プロジェクトにおけるWHAUPのサービスはデザイン設計、資材調達、建設、許認可手続き、システム運営から10年間のメンテナンスまですべて含みます。昨年11月に着工し、今年の8月に完成する予定です。WHAUPはプロフェッショナルなチームが高い基準のユーティリティとエネルギーサービスを個々のユーザーに提供しています。さらに複数の同様のプロジェクトの契約が現在進行中であり、「Nippon博士は説明します。屋上設置型太陽光ビジネスの強みと全国の産業顧客の信頼から、同社ではこれまでに総電力



「タインホア省人民委員会と将来性のあるパートナーシップを結ぶことができ、大変うれしく思います」「近年、ベトナムはASEANにおける重要な工業、製造拠点となっています。このMoUによりベトナムが先端技術を含めた様々な産業分野の投資家たちにとって魅力的な投資先となったことは間違いありません。結果としてシナジー効果を生み、WHAにとっても事業発展の絶好の機会となるでしょう」とWHAコーポレーション会長兼グループCEOのジャリポン・ジャルコンサクン氏は述べています。

またWHA インダストリアル・デベロップメント社産業・国際部門取締役デビッド・ナード氏は以下のようにコメントしています。「WHAとタインホア省人民委員会とのMoUはベトナムにおける当社の存在感を高め、成長戦略を強化することでしょう。2つのWHAプロジェクトは特定の市場機会に優れた立地を示しています。第一プロジェクトは省の

(1ページより続く)  
Nippon博士によると、WHAUPでは統合的な屋上設置型太陽光発電の設置サービスを推進してきた結果、多くの顧客から信頼を得てきました。このほどこいスタンシーボード工業団地(ラヨン)にフォードとMazdaのアセンブリ工場を持つAAT社が、WHAUP子会社のWHAソーラー社と4万5000平方メートルの屋上スペースに屋上設置型太陽光発電の建設と運営サービスに関する契約を結びました。

容量52MWの屋上設置型太陽光投資プロジェクト(顧客数にして約40件)の契約を結んでいきます。そのため、当初の目標であった2020年までに総発電容量50MWを上回り、WHAUPの総容量は稼働中、建設中を含め、持ち株比率では601MWに達することにになりました。さらに同社では屋上設置型太陽光事業ポートフォリオで2022年までに総発電容量

100MWを達成することを目標としています。設置サービスに関してはWHAグループの工業団地内、および外部の顧客へも提供される予定です。AAT社長兼CEOケル・カンズ氏は同社がWHAUPの屋上設置型太陽光発電設備を導入した理由として、設計部門の専門性と安全性、総合的なサービスを挙げます。AAT社はWHAUPの高いプロ意識と

能力に信頼をおいているのと、一方で、AAT社は屋上設置型太陽光発電設置により、生産コストを25年間で7億9000万バット削減し、CO2も9万2500トン削減することを重視しています。これは地球温暖化対策、温室効果ガス削減といった環境保護は同社の企業理念に沿ったものです。



## WHA インダストリアル・ゾーン1 ゲアンと土地転賃借契約を締結

電子機器に使用されるプラスチック部品を製造するRoss, the Gia Nhat Vietnam社はこのほどWHA インダストリアル・ゾーン1 ゲアンと土地転賃借契約を締結しました。中国を拠点とする同社は、年間およそ6億個の部品生産能力を持つ製造工場を建設する予定です。

2月3日、WHA インダストリアル・ゾーン ゲアンとゲアン省の貧困家庭支援協会はギロック郡の Nghi Thuan 自治体と Nghi Hung 自治体の恵まれない家庭へ2021年旧正月のお祝いとしてテトの贈り物を配布しました。ゲアン省委員会の書記長による恵まれない人々への支援と援助の呼びかけに、WHA インダストリアル・ゾーン ゲアン1はギロック郡の Nghi Thuan 自治体と Nghi Hung 自治体の在住者へ贈り物を贈りました。り物には地域社会を元気づけ、新年を迎えられるようにとの願いが込められていました。



Goertek Vina Precision Industry Co., Ltd は172個のテトの贈り物とその他寄付などをギロック郡 Nghi Long 自治体と Nghi Thuan 自治体の家庭へ配布しました



WHA インダストリアル・ゾーン ゲアンから寄付を受けるギロック郡 勤労、身障者&社会福祉課の Luong 氏



ゲアン省ギロック郡 Nghi Hung 自治体へテトの贈り物を贈るゲアン省の貧困家庭支援協会の代表団と WHA インダストリアル・ゾーン ゲアン

Vietnam  
**WHA INDUSTRIAL ZONE 1-NGHE AN**  
Your Manufacturing and Export Base to the Global Market

Smart Eco Industrial Zone on Asian Highway 1 (AH 1)

Managed by WHA Industrial Management Services Vietnam Co., Ltd.  
Nghe An Office: (+84) 238 222 9989 | Hanoi Office: (+84) 24 3574 8999  
Email: invest@whavietnam.com www.whavietnam.com

# WHA GROUP ニュースダイジェスト

WHA Group

## バンナー最新ランドマークのWHAタワー、入居受付を開始 ワークライフバランスに配慮したオフィススペース

WHAグループは、バンナーの最新ビジネス・ランドマークでWHA本社となるWHAタワーを立ち上げました。ハイテク・ソリューションとイノベーションを備えたスマートな労働環境は、企業にとって事業の立ち上げ、拡大展開していくには理想的な場所です。

WHA コーポレーション社会長兼グループCEOのジャリーポーン・ジャルコンサクン氏は、「この25階建てグレードAのオフィスビルには52,000平方メートルのオフィス空間と共有オープンスペースがあります。法人企業、多国籍企業(MNC)、中小企業、スタートアップ向けのオープンなワークスペースがフレキシブルで企業の成長に見合った形で提供されています。さらにテナント企業の従業員にとってワークライフバランスのとれた職場となることを目指しています。」と述べています。

優雅な曲線が美しい建物の外観は、まるで風景の中にたたずむ山のようなです。高い評価のオフィスタワーの建築デザインは、富と繁栄を表す古代中国のシンボルからインスピレーションを得ています。WHAタワーのデザイン設計を担当した国際的な設計事務所パルマー&ターナー(タイランド)は、同タワーでアジア・パシフィック・プロパティ・アワードのCommercial High Rise Architecture Thailand(商用高層建築部門)賞を受賞しました。

「我々はバンナーのランドマークとなるようなWHAタワーを建設することを構想していました。タイで認められ、賞を受賞できたことを誇りに思います」とジャリーポーン氏は述べます。

### フレキシブルな労働環境

当タワーでは利用者に仕事と暮らしの両面で充実した時間が過ごせるよう、仕事と健康的な、楽しい日常を同時に体験してほしいと願っています。タワーにはフレキシブルなワークスペースの他、共有ワークスペース、レストラン、カフェ、グリーンスペース、リラクゼーションスペースとしての噴水公園など、人々が自然を身近に体感できる場所があります。2023年にはバンナー通り沿いにLRT(次世代型軌道系交通システム)が完成する予定です。この新しい交通網により従業員と訪問者のアクセスも向上し、より早く、快適に移動できるようになるでしょう。

### デジタルイノベーションによる安全性とアジリティ

最新技術を利用し、最大限の安全と効率を追求したビルは24時間作動のCCTV、カードキー利用の入室システム、火災探知システム、建物診断、サーマルスキャン、顔認証アクセスコントロール、回転ドアなどのスマートセキュリティシステムを導入しています。駐車場は自動パーキングシステムとナンバープレート認証機能を備え、500台分の駐車が可能です。エレベーターは高層階、低層階ともに省エネの高速エレベーターを設置、IT環境面ではネットワーク中立性と将来的な拡張に備えクラウドサービスサポート、コロナ対策を導入しています。WHAグループでは常に対費用効果がよく、そして環境に優しい技術システムを選択しています。

「バンナーロード7キロ、バンコク中心地にもEECエリアにもほど近いロケーションは、ビジネスや投資を行なう上でとても優れています。WHAタワーはスワンナプーム空港、メガ・バンナー、セントラル・バンナーや居住区開発プロジェクトにも隣接しているためバンコクや主要幹線道路へのアクセスも容易です。テナントや訪問者などの利用者にとっての効率を最優先しています」とWHAインダストリアル・デベロップメント社産業・国際部門取締役のデビッド・ナードン氏は述べます。

タイでのプレゼンスをさらに拡大し、地域での成長戦略を構築する企業にとっては理想的なビルと言えるでしょう。WHAタワーでは現在入居希望企業を受け付け中です。見学ツアーのご予約を希望される場合は総代理店であるJLLまでご連絡ください。



## WHAグループ、エージェント・ディを開催 新社屋WHAタワーでバーチャル・ミーティング

WHAグループはエージェント・ディを設け、WHAタワーを紹介するオンラインイベントを開催しました。新社屋となるWHAタワーはバンナーロード7キロ地点のデバットナー通りに位置します。オフィスや商業施設など事業用不動産売買仲介のジョーンズ ラング ラサール(タイランド)およびWHAが実施したバーチャルツアーではバンナーの新しいビジネスコンプレックスの概要をタイ国内及び世界の賃貸事業主へ紹介しました。

WHA コーポレーション会長兼グループCEOのジャリーポーン・ジャルコンサクン氏は仲介業者を温かく歓迎。WHAインダストリアル・デベロップメント社産業・国際部門取締役のデビッド・ナードン氏はこのビルがワークライフバランスを推進し、企業の事業立ち上げと発展に貢献する最適な場所であると説明しました。

25階建てのタワーには高級ショップやフレキシブル・ワークスペースがあり、人々の憩いの場所と働く場所が一体となっています。WHAタワーはアジア・パシフィック・プロパティよりコマース・ハイライズ・アーキテクチャー・タイランド賞を受賞。東部経済回廊(EEC)の入り口に位置し、スワンナプーム空港、メガ・バンナー、セントラル・バンナー、主要港湾にも近接しています。WHAタワーは現在入居準備が整い、内覧も可能です。



WHAタワーのバーチャル・ツアー案内役を務めるWHAコーポレーション社会長兼グループCEOジャリーポーン・ジャルコンサクン氏



このビルで働く利点について説明をするWHAインダストリアル・デベロップメント社産業・国際部門取締役デビッド・ナードン氏



建物内部のフレキシブルなワークスペース



ズーム・ミーティングでのバーチャルツアー

## カフェ・アマゾン、 WHAタワー支店を開店

WHAタワーのカフェ・アマゾンのオープニング式典でテープカットをする憲法裁判所所長 Worawit Kangsasiatiam 氏(写真中央左)。式典にはWHAコーポレーション社会長兼グループCEOジャリーポーン・ジャルコンサクン氏(左端)とPongchai Niramitsrivichai 氏(右端)も出席しました。



## Bellinee's Bake & Brew, WHAタワー内に出店

焼き立てパンとイタリアンローストコーヒーが人気のカフェ Bellinee's Bake & Brew はバンナーロードのWHAタワーに新店舗 Bellinee's Grab & Go をオープンしました。モダンロフト風に内装された新店舗では、プレミアムなベーカリー商品と飲み物が一日中お楽しみいただけます。カフェは、バンナーの新しいWHAタワーでワークライフバランス重視した楽しいライフスタイルの確立に貢献します。



## CSR

### WHAグループ、2021年のCSR活動を開始

WHAグループのCSR(企業の社会的責任)プログラムは同社の存在意義を担う重要な活動のひとつです。さまざまな形で地域社会と関わりを持ち、社会に良い影響を与える活動を行ってまいります。WHAグループでは長い年月をかけ、異業種企業、地方自治体と連携をとり、強く、生産性の高い社会、そこに住む人々がよりよい生活を送れるよう働きかけてきました。

例年、1月の第2土曜日に全国区で祝われる子どもの日は、国家の宝である子どもたちのための祝日です。しかし、今年は新型コロナの感染拡大が懸念され、多くの活動は自粛となりました。

そのような状況の中、WHAインダストリアル・デベロップメント社の役員はタイ工業団地公社(IEAT)と工業団地入居企業とともにラヨーン県ブルアックテーンのBan Khlong Kram学校、チョンブリ県シラチャのBan Hup Bon学校を訪問しました。子どもたちが勉学に集中できるよう、健康的な食事と栄養補給のため、食品、ミルク、菓子類などを配給しました。また子どもたちの創造性と学習能力の向上のため学用品も配布しました。

### すべての人に安全なコミュニティを

WHAグループはコミュニティ住民の安全と安心を大切にしています。WHAはラヨーン県ブルアックテーンのチョンボン・チャオプラヤ地区の電光掲示板のメンテナンスのための資金を寄付しました。電光掲示板はWHAイースタン・シーボード工業団地1(WHA ESIE 1)至近に設置されており、重要かつ最新の環境情報、お知らせ、注意事項などを人々に伝えています。

WHAグループのCSRプログラムでは社会の人々の生活水準の向上と影響を与えることで、社会に還元することを目的としています。WHAグループでは、経営陣、スタッフ、工業団地の顧客、ステークホルダーとともに、コミュニティと強い絆を結び、次世代のための安全な未来創りに貢献していきます。



## WHA ID

### WHAサラブリ・インダストリアルランド、Green Industry Awardを受賞

WHAインダストリアル・デベロップメント社が開発したWHAサラブリ・インダストリアルランド(WHA SIL)はこのほどタイ工業省より「環境に配慮したクリーンな工業団地」カテゴリーでタイ初のGreen Industry Awardを受賞しました。

工業省副次官のPanuwat Triyanguksri氏(右の写真 左端)が主催した今回の授賞式では、当社のサステナブルな環境ビジネス運営の長期的な取り組みが評価され、WHAのスマートでグリーンな工業団地開発を継続していくミッションが再確認されました。

授賞式にはWHAを代表してWHAインダストリアル・デベロップメント社顧問のSunthorn Kongsunthornkitkul氏(左の写真 右側)と工業団地運営取締役のRakphol Kangnoy氏(右の写真 右から2人目)が出席しました。



Advertise with Us

## WHA Billboards & LED Display

Billboard Locations: WHA Plaza1, WHA ESIE 1

LED Display Locations : ESIE Office, WHA ESIE 2 Office, WHA Plaza 2, WHA Plaza 3

Call for more info  
+66 2 719 9555

www.wha-industrialestate.com

